

2022年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	基礎製図（Architectural Drawing）		
ナンバリングコード	L10305	大分類 / 難易度 科目分野	建築学科 専門科目 / 基礎レベル 建築設計製図
単位数	2	配当学年 / 開講期	1 年 / 前期
必修・選択区分	必修 ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	L030501	クラス名	-
担当教員名	近藤 正一、西村 謙司、江越 充、福田 健		
履修上の注意、 履修条件	図面は期限内に完成させ提出してください。 毎時製図用具を持参してください。		
教科書	なし		
参考文献及び指定図書	パースの超簡略技法(学芸出版社)北村稔著 ほか		
関連科目	CAD製図, スペースデザイン		

○基本情報		
授業の目的	製図は線の練習からはじまります。線は太線、中線、細線で表現できることが必要です。自由に線で表現できるように基本的な線とその他の線の表現について演習を行います。点から線への表現、ここでは図面表現の基礎となる線の練習を行い、また、線から面としての立体表現の基礎的な表現技術を習得します。さらに、遠近法で表現することにより空間の概念が表現できることを理解させ、線から面へそして空間、奥行き表現へと一本の線に秘めた無限の可能性を理解させながら課題の演習を行います。後半は、建築製図に関する基礎的な表現法を学修し、初歩的な製図技術を身につけることを本演習授業の目的とします。	
授業の概要	前半は、線の引き方、立体の描画方法を学習します。後半は、平面図・立面図・断面図によって建築空間を図面として表現するための表示方法と表現力を修得します。また、各種記号の意味を学び、その応用として、建築作品を詳細に図面表示するための演習に取り組むことによって、各図面のもつ表現の目的と表現方法とを、縮尺と関連させて理解します。	
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「演習等形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	「共同担当方式」
	(3) アクティブ・ラーニング	「実習、フィールドワーク」
地域志向科目	該当しない	
実務経験のある教員による授業科目	江越充 本授業の基礎製図に関する実務経験として株式会社ライティングMIにて照明環境デザインに従事。	

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】				
【知識・理解】	① 立体の捉え方を養う。／② 各図面のもつ表現の目的と方法とを、縮尺と関連させて総合的に理解できる。		25点	
【技能・表現・コミュニケーション】	③ 線の引き方を練習しパースの技法を習得し、基礎的な製図技法を身につける。／④ 平面図・立面図・断面図によって建築空間を図面として表現することができる。		70点	
【思考・判断・創造】	⑤ 計画的に作図作業を実行し、締め切りまでに図面を仕上げるができる。		5点	
○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)				
原則として毎回、講義の最後に授業内容について課題を出します。 提出をもって出席に代えますので、課題が課されたら、かならず提出してください。達成水準の目安は以下の通りです。 [Sレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 [Aレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。 課題のフィードバック方法については、次回以降の授業中に講評・解説を行います。				

○その他

2022年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名	基礎製図（Architectural Drawing）	授業コード	L030501
	担当教員	近藤 正一、西村 謙司、江越 充、福田 健		
学修内容				
1. スタートアップセミナー1				
16週に振り替えます。				
予習	16週に振り替えます。			約2時間
復習	16週に振り替えます。			約2時間
2. スタートアップセミナー2				
16週に振り替えます。				
予習	16週に振り替えます。			約2時間
復習	16週に振り替えます。			約2時間
3. 製図用具について・線文字の練習1				
製図で使用する用具、及びその使用方法について学習します。購入すべき用具の紹介と、製図台の使い方、定規の使い方などについて説明を行います。また、授業計画や受講の心構え、具体的な評価の方法などについても解説します。その後、三角定規、スケール、ホルダーの用い方を習得しながら、図面で用いる基礎的な線（実線＝太線・中線・細線、破線、点線、鎖線）の練習を行います。また、平行定規と三角定規を用いた垂直線と斜線、平行線の引き方についても学習します。				
予習	製図用具を準備する。			約2時間
復習	不十分な部分を復習しマスターしておく。			約2時間
4. 製図用具について・線文字の練習2				
製図で使用する用具、及びその使用方法について学習します。購入すべき用具の紹介と、製図台の使い方、定規の使い方などについて説明を行います。また、授業計画や受講の心構え、具体的な評価の方法などについても解説します。その後、三角定規、スケール、ホルダーの用い方を習得しながら、図面で用いる基礎的な線（実線＝太線・中線・細線、破線、点線、鎖線）の練習を行います。また、平行定規と三角定規を用いた垂直線と斜線、平行線の引き方についても学習します。				
予習	製図用具を準備する。			約2時間
復習	不十分な部分を復習しマスターしておく。			約2時間
5. 製図記号の意味1				
製図記号とその意味を学びます。記号が何を意味しているのかを理解し、実際の建築をイメージして描きます。まずは製図用紙を製図板に正しく貼るところから始めて、正しく使いこなすことができるようになります。当該時間内に図面を完成させて提出します。				
予習	製図記号について調べておく。			約2時間
復習	不十分な部分を復習しマスターしておく。			約2時間
6. 製図記号の意味2				
製図記号とその意味を学びます。記号が何を意味しているのかを理解し、実際の建築をイメージして描きます。まずは製図用紙を製図板に正しく貼るところから始めて、正しく使いこなすことができるようになります。当該時間内に図面を完成させて提出します。				
予習	製図記号について調べておく。			約2時間
復習	不十分な部分を復習しマスターしておく。			約2時間
7. 製図記号試験・点景の演習1				
製図記号について中間チェックを実施します。点景を実測して理解し、正確な縮尺で図面表現します。当該時間内に図面を完成させて提出します。				
予習	点景について調べておく			約2時間
復習	不十分な部分を復習しマスターしておく。			約2時間
8. 製図記号試験・点景の演習2				
製図記号について中間チェックを実施します。点景を実測して理解し、正確な縮尺で図面表現します。当該時間内に図面を完成させて提出します。				
予習	点景について調べておく			約2時間
復習	不十分な部分を復習しマスターしておく。			約2時間

○授業計画	科目名	基礎製図（Architectural Drawing）	授業コード	L030501
	担当教員	近藤 正一、西村 謙司、江越 充、福田 健		
学修内容				
9. 平・立断面図1 設計図面に広く用いられている一般的な正投影図法について解説し、第三角法による図面表現と三面図の表現方法について学習します。 平面図、正面図、側面図の概念を理解し、立体モデルを参照しながら平面的な三面図へと展開していく練習を行います。 当該時間内に図面を完成させて提出します。				
予習			三面図について調べておく。	
復習			不十分な部分を復習しマスターしておく。	
約2時間				
約2時間				
10. 平・立断面図2 設計図面に広く用いられている一般的な正投影図法について解説し、第三角法による図面表現と三面図の表現方法について学習します。 平面図、正面図、側面図の概念を理解し、立体モデルを参照しながら平面的な三面図へと展開していく練習を行います。 当該時間内に図面を完成させて提出します。				
予習			三面図について調べておく。	
復習			不十分な部分を復習しマスターしておく。	
約2時間				
約2時間				
11. 等軸測投象図・斜軸測投象図1 等軸測投象図（アイソメ図）・斜軸測投象図（アクソメ図）について学び、先週に演習した三面図から立体感を表現するための製図を演習します。 当該時間内に図面を完成させて提出します。				
予習			アイソメ図・アクソメ図について調べておく。	
復習			不十分な部分を復習しマスターしておく。	
約2時間				
約2時間				
12. 等軸測投象図・斜軸測投象図2 等軸測投象図（アイソメ図）・斜軸測投象図（アクソメ図）について学び、先週に演習した三面図から立体感を表現するための製図を演習します。 当該時間内に図面を完成させて提出します。				
予習			アイソメ図・アクソメ図について調べておく。	
復習			不十分な部分を復習しマスターしておく。	
約2時間				
約2時間				
13. 建築図面演習 製図の基礎知識1 鉄筋コンクリート造建物を例として、建築製図の基本的知識を学びます。7回にわたる一連の授業とし、『日本文理大学 基礎製図 教科書』（500円）を使用した大学独自の製図の授業を行います。7回のうち、1回目はオリエンテーション、鉄筋コンクリート造建物の基礎知識を学びます。				
予習			建築設計製図に関する教科書を図書館にて調査する。基本的な設計製図の学習体系を予習すること。	
復習			『日本文理大学 基礎製図 教科書』の2頁までを読み、重要な点をまとめること	
約2時間				
約2時間				
14. 建築図面演習 製図の基礎知識2 鉄筋コンクリート造建物を例として、建築製図の基本的知識を学びます。7回にわたる一連の授業とし、『日本文理大学 基礎製図 教科書』（500円）を使用した大学独自の製図の授業を行います。7回のうち、1回目はオリエンテーション、鉄筋コンクリート造建物の基礎知識を学びます。				
予習			建築設計製図に関する教科書を図書館にて調査する。基本的な設計製図の学習体系を予習すること。	
復習			『日本文理大学 基礎製図 教科書』の2頁までを読み、重要な点をまとめること	
約2時間				
約2時間				
15. 建築図面演習 配置図の作成1 鉄筋コンクリート造の建築物の図面を書くための訓練を行います。 ここでは配置図について学びます。				
予習			『日本文理大学 基礎製図 教科書』の3～9頁までを読むこと。A1のケント紙を用意すること。	
復習			A1ケント紙の指定された位置に該当建物の配置図を製図すること。	
約2時間				
約2時間				
16. 建築図面演習 配置図の作成2 鉄筋コンクリート造の建築物の図面を書くための訓練を行います。 ここでは配置図について学びます。				
予習			『日本文理大学 基礎製図 教科書』の3～9頁までを読むこと。A1のケント紙を用意すること。	
復習			A1ケント紙の指定された位置に該当建物の配置図を製図すること。	
約2時間				
約2時間				

2022年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名 担当教員	基礎製図（Architectural Drawing） 近藤 正一、西村 謙司、江越 充、福田 健	授業コード	L030501
学修内容				
17. 建築図面演習 平面図の作成				
鉄筋コンクリート造の建築物の図面を書くための訓練を行います。 ここでは平面図について学びます。				
予習	『日本文理大学 基礎製図 教科書』の10～18頁までを読むこと。			約2時間
復習	A1ケント紙の指定された位置に該当建物の平面図を製図すること。			約2時間
18. 建築図面演習 平面図の作成				
鉄筋コンクリート造の建築物の図面を書くための訓練を行います。 ここでは平面図について学びます。				
予習	『日本文理大学 基礎製図 教科書』の10～18頁までを読むこと。			約2時間
復習	A1ケント紙の指定された位置に該当建物の平面図を製図すること。			約2時間
19. 建築図面演習 断面図の作成				
鉄筋コンクリート造の建築物の図面を書くための訓練を行います。 ここでは断面図について学びます。				
予習	『日本文理大学 基礎製図 教科書』の19～27頁までを読むこと。			約2時間
復習	A1ケント紙の指定された位置に該当建物の断面図を製図すること。			約2時間
20. 建築図面演習 断面図の作成				
鉄筋コンクリート造の建築物の図面を書くための訓練を行います。 ここでは断面図について学びます。				
予習	『日本文理大学 基礎製図 教科書』の19～27頁までを読むこと。			約2時間
復習	A1ケント紙の指定された位置に該当建物の断面図を製図すること。			約2時間
21. 建築図面演習 立面図の作成				
鉄筋コンクリート造の建築物の図面を書くための訓練を行います。 ここでは立面図について学びます。				
予習	『日本文理大学 基礎製図 教科書』の28～33頁までを読むこと。			約2時間
復習	A1ケント紙の指定された位置に該当建物の立面図を製図すること。			約2時間
22. 建築図面演習 立面図の作成				
鉄筋コンクリート造の建築物の図面を書くための訓練を行います。 ここでは立面図について学びます。				
予習	『日本文理大学 基礎製図 教科書』の28～33頁までを読むこと。			約2時間
復習	A1ケント紙の指定された位置に該当建物の立面図を製図すること。			約2時間
23. 建築図面演習 スケッチ、パースの作成				
鉄筋コンクリート造の建築物の図面を書くための訓練を行います。 ここではスケッチやパースについて学びます。 パースは、実践的なスケッチができるための簡易透視図法に基づく描画法を学びます。				
予習	建物の描画法に関して図書館にて資料調査を行うこと。			約2時間
復習	A1ケント紙の指定された位置に該当建物のパースを描画すること。			約2時間
24. 建築図面演習 スケッチ、パースの作成				
鉄筋コンクリート造の建築物の図面を書くための訓練を行います。 ここではスケッチやパースについて学びます。 パースは、実践的なスケッチができるための簡易透視図法に基づく描画法を学びます。				
予習	建物の描画法に関して図書館にて資料調査を行うこと。			約2時間
復習	A1ケント紙の指定された位置に該当建物のパースを描画すること。			約2時間

○授業計画	科目名	基礎製図（Architectural Drawing）	授業コード	L030501
	担当教員	近藤 正一、西村 謙司、江越 充、福田 健		
学修内容				
25. 建築図面演習 図面の仕上げとエスキースの実践				
鉄筋コンクリート造の建築物の図面を書くための訓練を行います。 ここでは図面の仕上げとプレゼンテーションを行います。				
予習	建物の設計手法に関して図書館にて資料調査を行うこと。			約2時間
復習	A1ケント紙の表と裏に描画された図面、パースの仕上げを行い、提出する。			約2時間
26. 建築図面演習 図面の仕上げとエスキースの実践				
鉄筋コンクリート造の建築物の図面を書くための訓練を行います。 ここでは図面の仕上げとプレゼンテーションを行います。				
予習	建物の設計手法に関して図書館にて資料調査を行うこと。			約2時間
復習	A1ケント紙の表と裏に描画された図面、パースの仕上げを行い、提出する。			約2時間
27. 階段の実測				
スケール感を養うための実測の方法について解説し、身近な教材として、階段の実測を行います。				
予習	身近な存在である階段について、造詣を深めておく。			約2時間
復習	不十分な部分を復習しマスターしておく。			約2時間
28. 階段の実測				
スケール感を養うための実測の方法について解説し、身近な教材として、階段の実測を行います。				
予習	身近な存在である階段について、造詣を深めておく。			約2時間
復習	不十分な部分を復習しマスターしておく。			約2時間
29. 階段の製図				
階段の平面図を作成することにより、建物の水平切断投影図である平面図の図面表現の方法と平面表示記号の表示方法等について理解します。建築の内部空間を表現するためには垂直断面である断面図が不可欠です。また、建築がどのような外観をしているかを明らかにする立面図に対して、内部の表現が展開図です。階段の断面図と展開図を作成することにより、それぞれを平面図と関連付けながら、構造や奥行きを表現する方法を演習を通して理解します。				
予習	平面図、断面図、展開図について、予め復習しておく			約2時間
復習	不十分な部分を復習しマスターしておく。			約2時間
30. 階段の製図				
階段の平面図を作成することにより、建物の水平切断投影図である平面図の図面表現の方法と平面表示記号の表示方法等について理解します。建築の内部空間を表現するためには垂直断面である断面図が不可欠です。また、建築がどのような外観をしているかを明らかにする立面図に対して、内部の表現が展開図です。階段の断面図と展開図を作成することにより、それぞれを平面図と関連付けながら、構造や奥行きを表現する方法を演習を通して理解します。				
予習	平面図、断面図、展開図について、予め復習しておく			約2時間
復習	不十分な部分を復習しマスターしておく。			約2時間
31. 課題提出日				
これまでに自らが取り組んだ課題について振り返り、不十分な部分を明らかにするとともに、どこが間違っているのか、どのようにすればより完全な状態に近づくことができるのかを理解し、授業の到達目標を達成します。				
予習	これまでの課題で不十分な部分を完成しておく。			約2時間
復習	授業の振り返りをする。			約2時間
32. 課題提出日				
これまでに自らが取り組んだ課題について振り返り、不十分な部分を明らかにするとともに、どこが間違っているのか、どのようにすればより完全な状態に近づくことができるのかを理解し、授業の到達目標を達成します。				
予習	これまでの課題で不十分な部分を完成しておく。			約2時間
復習	授業の振り返りをする。			約2時間